

私を最も励ましてくれた人

カリミルホラホ

私の祖母はカーペットの織工しつこうでした。毎年まいとし

ペルシヤ暦こけいの正月こけいである春分しゅんぶんに、祖母は絹きぬの

糸いとを買かい、それらでカーペットを織おりました。

私わたしが5歳ごさいの時とき両親りしんは離婚りこんしました。その後のち祖

母ははと一緒に暮くらし始めはじめました。祖母おばあはここも

親切しんせつに私わたしを支たえてくれたので、両親りしんが分ぶん裂れつし

たかりとじ。こ私わたしが傷きずつくことことはありませ

でした。私わたしが小学校しょうがっこうに通とじ始めはじめた時とき祖母おばあは毎

日ひお弁当べんとうを作り、学校がっこうに連つれこ行い。こくれま

した。学校がっこうの会あい合あいがある時ときはいついつでも、祖母おばあ

が来きました。祖母おばあが私わたしを育そだてました。祖母おばあは

いつも私わたしに英えい語ご学校がっこうに行い。こ英えい語ごを学まなぶよう

に勤しんめしました。祖母おばあは本ほん当とうに私わたしに英えい語ごを話はなせ

るようにな。こほしがったのでのです。祖母おばあの夢ゆめ

は私わたしが留る学がくすることことでした。

ある夏なつ休やすみみに一緒いっしょに旅りょ行こうをし、イラン北東

部ぶの都と市しマシユハドマシユハドに行いきました。イギリス

人ひとの観くわん光くわう客きゃくが聖せい廟ぼうにつついて説せつ明めいしこくれる人

を探していた時、私は行って彼らのために英語で説明しました。その瞬間、祖母の目に私を誇りに思っている様子がかうかびました。文部科学省の奨学金は2年前のことです。私は最初、応募したくなかったのですが、祖母は応募するように励ましてくれました。祖母は私が日本大使館の試験に合格するよう毎日祈っていました。ところがコロナが始まった時、病気がかかっ、こしまじました。容態は日々悪化してしまじました。そして残念ながら、祖母は亡くなりました。私をを最も励ましてくれた人は亡くなりました。その後、私は奨学金を受けることができましたが、祖母はそれを喜ぶことができませんでした。今私は日本に留学しています。祖母の夢を生きこいます。祖母が生きていたがき、と祖母の目には私を誇りに思っているようすがうかんでいるでしょう。私は祖母が望んでいたのど、一生けん命勉強して成功することをここに約束します。